

19年1月分

かたつむり登るば登れ 富士の山

新年にあたって、つくづく思うのは、自分は本当に ついていける人生を歩ませて
いたがいていけるなあということです。今年の9月には、55歳 になります。が、
昨年12月25日まで父は健在でした。79歳まで茨城県の那珂で社長でした。
80歳の天寿を全うして亡くなりましたが、この年まで社長をやつてくれた
ということは、とにかくよく勉強をし、時代の流れに合うように会社の業態
を変えられたからです。私がついていったと思うのは、この父が人生の生き
方を学べたことです。私が実践していることがいくつかあります。一つ
は「社員に使用人という言葉を使うな、働いてくれている人と言え」「不吉
な言葉は使えな」「たとえ不器用でも嘘をつかず真面目な人を大事にしな
せよ」等です。私は商業高校出身ですが大学へ行かせてもくれました。
兄は普通高校、弟は工業高校で地元就職、弟は父の会社に就職、
兄弟では私だけが東京へ行かせてくれました。本当に感謝しています。大学
へ入ってから、会計士試験合格を目指して1年より勉強、アルバイトも
ほとんどすることなく仕送りで生活できました。それでも2回連続不合格
3回目の試験へ挑戦したいけど親へ負担をかけるのは申し分けないと思っ
て、父が父の手紙、手紙の最後に「かたつむり登るば登れ 富士の山」と
いう俳句が書いてありました。この言葉に勇気づけられ、朝8時から夜の11時
まで勉強しました。そしてどうにか3回目の試験で合格することができました。
父の応援がなかったら今の私はなかったと思っています。父の教えがなかったら
なにも自己中心的な経営しかできなかったのではなかつたかと思ひます。私
がいつも感心していたのは、結婚式や告別式で聞く父のスピーチのうまさです。
父のようなスピーチの出来る人間になりたく目標にして来ました。このような
父にこの年になるまで学べた私は、本当にありがたく、ついていけます。もう一つ
感謝しているのは、死ぬ前に遺産は全て誰に何を相続させるか決めていたこ
とです。メモが残っていました。私の分が何もなかったということです。満は大大
夫と生前言っていたそうです。親の期待というが喜んでおとうと一生懸命頑張
って来たつもりです。父が信頼されていたという事が私にとっては一番の喜びです。
父を見て来て、人生どのように生きるべきかは学んだつもりです。恩は親
には返せませんが、私がお客様、社員、国家に返して行きます。昨年で
社員が100人を超え、お客様は今年1,100件を超えます。お多くのお客様
に感動してもらえる仕事をします。誰よりも熱く、情熱的に仕事をしま
す。一社でも多くの中小企業とその社員、家族に喜んでもらえる仕事をしま
す。社員の生活の安定と未来のために人間性を高め、社員が尊敬で
きる経営者に存じます。会社を公器と考え、今年を第2創業の年として
6ヶ年計画をスタートさせます。長期事業計画により、2013年を第3創業
の年とします。そのために今年より、組織を見直し、商品開発、採用、教育、新規開
拓を重点とした戦略を実行します。2020年が夢の達成日付です。

今日号は私の個人的な話で大変申し分けありません。

古田土 満